北海道畜産草地学会・北海道獣医師会・日本畜産学会　共催シンポジウム

乳用子牛における群管理のポイントと取り組み事例

日　時：2015 年 9 月 12 日（土）14：00　～　17：45
場　所：酪農学園大学　中央館 1 階　学生ホール

飼養規模拡大や担い手不足による分業化の促進にともない、預託牧場や公共牧場は地域の哺育・育成部門としての役割は大きい。

これまで哺乳子牛は、個別管理で哺乳量を制限し、スターターを早期から摂取させて 6 週齢程度で離乳方法が推奨されてきた。しかし、預託牧場や公共牧場では、哺乳期から多頭数を効率良く管理できる自動哺乳装置を利用した代用乳給与による群管理が基本となる。一般的に代用乳は生乳よりも脂肪含量が低いため、冬季間の寒さが厳しい地域での現行の給与法ではエネルギー摂取量が維持要求量にも満たなくなり、発育停滞や免疫機能の低下による疾病の増加が懸念される。また、群管理では病原菌が伝播しやすいため個体管理以上に疾病の予防に注意を払わなければならない。

そこで本シンポジウムでは、栄養および衛生の両面から、群管理のポイントについて提起するとともに、生産現場での取り組みについて事例を紹介する。

コンビーナー：森田　　茂（酪農学園大学 教授）
　　仙名　和浩（北海道立総合研究機構 畜産試験場 基盤研究部長）

プログラム

14:00　開会挨拶
14:05～14:50　哺乳子牛の衛生管理と疾病対策
　　大塚　浩通（酪農学園大学 准教授）
14:50～15:35　哺乳子牛の栄養管理と寒冷対策
　　大坂　郁夫（北海道立総合研究機構 根釧農業試験場 研究主幹）
15:35～15:45　休憩
15:45～16:15　現地の取り組み事例①
　　桐山　靖朗（株式会社シーブライト 代表取締役）
16:15-16:45 現地の取り組み事例②
　　森山　友恵（十勝農業共済組合 獣医師）
16:45～17:15 現地の取り組み事例③
　　類瀬　光信（標茶町育成牧場 場長）
17:15-17:45 総合討論